

平成19年度 川上・川下ネットワーク構築支援事業
成 果 報 告 書

委託法人名 (代表者名)	愛媛県中小企業団体中央会 会長 山本 功	所在地	愛媛県松山市三番町4丁目 10番地1
契約名 (テーマ名)	愛媛県のモノ作り企業と近畿圏における情報家電産業等との ネットワーク構築事業		

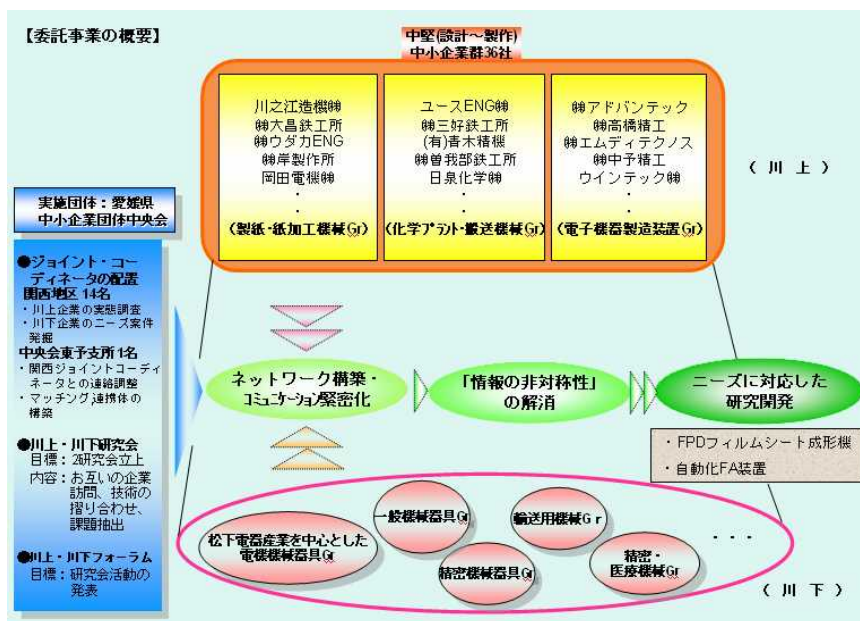
1. 委託業務の概要

愛媛県の中小企業は、特定の大手企業(親企業)との従来型縦系列の取引関係(いわゆる下請構造)が強く、また、大手企業の細分化された部分発注に対応するため特定分野への専門特化などの傾向が依然として強く見られる。

このため、企業集積や技術の蓄積を有しながら、そのメリットを十分に活かしきれていない状況にあることから、地元中小企業では、これまでも、新たな収益の柱、新たな取引先の開拓等を目的として、個別企業ベースでの川下企業とのマッチングなどに取り組んできてはいるが、十分な成果には結びついていないのが実情である。

こういった隘路を解決するためには、自社においてユーザーの仕様に基づき、設計・製作・保守まで一貫した製造工程を保有しているこれら中核的企業が、川下企業の参画を確保しつつ、自らが中心となってテーマ別研究会を立ち上げ、その発展形である事業チーム等へと展開していくことが最も効果的であると考えられることから、松下電器産業グループに強いパイプを持つ、(株)ベンチャーラボの協力を得て、情報家電(白物家電含む。)分野の川下企業とのコミュニケーションの深化による「情報の非対称性の解消」と「研究開発の不確実性の低減」に向けた取組みを推進する。

(概要図)



1 フォーラム構成企業者数及び企業者名

川上中小企業者	川上中小企業者数	川上中小企業者・団体名	
	33	四国中央 (5社)	(株)ウダカエンジニアリング、岡田電機(株)、(株)大昌鉄工所、川之江造機(株)、技研工機(株)
		新居浜・西条 (19社)	(株)谷口金属熱処理工業所、(株)エムディテクノス、ユースエンジニアリング(株)、(株)曾我部鉄工所、(株)テラマチ、宮田鉄工所(株)、萩尾高圧容器(株)、萩尾機械工業(株)、(株)岸製作所、日泉化学(株)、(株)三好鉄工所、(有)青木精機、(株)サイバー、(株)シーライプ、(株)高橋精工、(株)日本システムグループ、(株)アドバンテック、(株)一宮工務店エンジニアリング本部、(株)シーライプ
		今治(1社)	(株)リバーテック
松山・東温 (8社)	(株)中予精工、(株)エクセル電子、フジケンエンジニアリング(株)、(株)ユタカ、(株)テックス、愛建電工(株)、(株)ヒカリ、ウィンテック(株)		

川下企業者	川下企業者数	川下企業者名
	8	ニチゾウ電子制御(株)、太陽トレーディング(株)、コスミック(株)、大阪ガスエンジニアリング(株)、恵和(株)、(株)キーエンス、日精エンジニアリング(株)、松下電器産業(株)

2. 事業実績

(1) フォーラム(シンポジウム・交流会等)開催実績

フォーラム名等	参加企業		参加数	開催日	開催内容
	川上企業	川下企業			
川上川下フォーラム テーマ「創り・挑戦するモノ作り企業の飛躍を目指して」	18社	0社	67名	平成20年 1月24日	情報家電産業等とのネットワーク構築の可能性を高めるため実施。 ・基調講演 ・パネルディスカッション

(2) セミナー・勉強会開催実績

研究会名	実施日	検討課題(テーマ名)	参加企業	
			川上企業	川下企業
第1次技術	平成19年 10月24日	川上企業のシーズ・ニーズと川下企業のニーズの摺り	自動制御装置設計 製作	産業用電子・制御機器開発・設計製作

研究会	平成 19 年 11 月 12 日	合わせ。課題の抽出。	精密機械部品製造	各種生産ラインシステム開発・設計製作
	平成 19 年 11 月 27 日		自動機器設計製作	医療関連システムの開発・設計製作
	平成 19 年 12 月 18 日		産業用プラント工事	ガス関連設備の開発・設計製作・工事
	平成 19 年 12 月 25 日		電子部品製作	FA センサー、自動制御機器
	平成 19 年 12 月 26 日		加工機械メーカー	各種フィルム製品の製造
	平成 19 年 12 月 28 日		自動機器設計製作	各種自動機的设计・製作
	平成 20 年 1 月 18 日		自動制御装置設計製作	総合家電メーカー
第2次 技術 研究会	平成 20 年 1 月 15 日	第1次各技術研究会の深化と新たな研究会立上げのため専門家を招いて燃料電池の勉強会を開催。	ユースエンジニアリング(株)はじめ 10 社	松下電器産業(株)

(3) シーズ・ニーズ調査実績

シーズ(川上企業)調査・・・33 社、ニーズ(川下企業)調査・・・延べ 19 事業所
--

(4) 販路開拓実績

展示会名等	参加企業		開催日	開催場所	開催内容・検討課題等
	川上企業	川下企業			
該当無し					

(5) ジョイント・コーディネータの配置及び果たした役割について

氏名	所属	専門分野	川上・川下間のシーズとニーズのマッチング及び連携コーディネートの内容等
森本孝克	株式会社 ベンチャー ラボ関西支社 アソシエイツ	高分子材料	川上企業 31 社の実態調査により川上企業のシーズ・ニーズを把握した上で、それに合う近畿圏の情報家電産業等の川下企業の掘り起こしを行うと共に、ネットワークの構築を推進した。 (大阪ジョイント・コーディネータ)
松本進		電子デバイス、電子部品実装技術	
石井克巳		住宅設備機器・白物家電の開発	
石川健治		フッ素系製品及び研磨材製品営業	
木谷晃夫		電子機器回路・表示装置の設計	
高島一成		電力機器の開発・設計・量産化	
東浦利幸		生産自動機的设计開発、要素・工法開発	
淵上繁		金属加工、新製品の試作・量産立上げ技術	
間野洋治郎		半導体設計・システム LSI	
村井田毅		TFT 液晶パネルのプロセス技術	
村上俊男		生産技術全般(生産設備技術、金型技術など)	
竹内幸男		産業機械・装置の電気・機械制御システムの設計	

小川順弘		医療機器開発及びシステム開発	
鈴木喜彦		ビニロン繊維の商品企画、用途開発	
海陸力		ガスメータ・配管・センサー・診断機器等の開発	
武田健司		光ディスクドライブに関する技術開発	愛媛のジョイント・コーディネータとして、大阪ジョイント・コーディネータと川上企業の各種連絡調整及びマッチング経過のフォロー等の管理を行った。

3. 本事業の実施結果(成果)及び評価

成果

- ・専門性の高いジョイント・コーディネータ16名による、愛媛県の川上企業33社の実態調査により、川上企業のシーズ・ニーズが明確に把握することで、当初目標とした川上企業の「見える化」を達成することができた。
- ・実態調査をとおり、ジョイント・コーディネータから川上企業に対して、技術的及び経営的アドバイスがなされ、川上企業へ「自社の強み弱みの気づきの付与」と「新たな事業領域への挑戦に向けた動機付け」が促進された。
- ・川上企業のシーズ・ニーズに合う川下企業案件52件がリストアップされた。その内43案件が川下企業に対して提案がなされ、さらにその内8件が川下企業と川上企業の技術的打合せ、即ち研究会に発展した。詳細は以下のとおり。

(マッチング経過表)

マッチング内訳	回数	内訳内容
折衝予定企業数	52	ジョイント・コーディネータ会議で折衝企業をリストアップ
一連アクション数	59	一つの案件に関して行う事前資料準備、根回し活動等を1回としてカウント
折衝実施回数	43	一つの案件に関し、ジョイントコーディネータが折衝予定企業と折衝した一連の活動を1回としてカウント
マッチング回数	16	実際に愛媛県企業と対象企業がお互い協議を始めた回数(一つの案件に対して2回以上引き合わせても1回にカウント。また電話等の種類は問わない)
個別研究会	9	愛媛県川上企業と川下企業担当者が一堂に会し、意思疎通を図るために行った研究会の回数
不成立	15	マッチングが困難になった案件数

評価

- ・今回、大手企業OBによるジョイント・コーディネータチーム(14名)により、集中的な県内企業実態調査及び近畿圏の川下企業とのマッチング斡旋を行ったが、各コーディネータが川上企業、川下企業それぞれのニーズ・シーズ情報を共有しながら取組みを進めたことで、県内企業1社に対し、コーディネータ14名が持つ広範なネットワークを活用し、マッチング先の探索、斡旋が行えた。これにより、従来型の個別マッチングに比べて、はるかに高効率・高確度なマッチングが可能になったことから、本事業のスキームの有効性が確認できた。
- ・また、ジョイント・コーディネータを介して、通常であれば、県内企業がアプローチすることのできない近畿圏の川下企業とのコミュニケーションの確保が可能となった。
- ・ただし、「川上企業を中心とした同業種・異技術企業等による研究会や事業チーム等の立ち上げに向けた動機付けとテーマ設定」目標については、動機付けは行えたものの、テーマ設定まで至っていない。ただ川下企業のニーズの中にテーマに発展しそうな案件もあり、今後も継続してフォローアップを行っていくこととする。
- ・「愛媛県側企業の強みにマッチしそうな川下企業のスクリーニングとニーズ把握、研究会や

事業チームへの参画の確保目標は、スクリーニング及びニーズ把握では、達成が82.7%と積み残し案件はあるものの、短期間の活動で43件の川上企業との折衝実施回数は満足出来る結果となった。また研究会や事業チームへの川下企業の参画確保は、把握した川下企業のニーズが明確になっているため、川上企業の動機付けさえ行うことが出来たら、実現化するものと考えている。

- ・川上企業が川下企業に訪問し、技術的打合せを行った研究会が8件実施され、新たな川下企業とのネットワーク構築への一歩が築けた。

4. 連携プロジェクトへのアプローチについて

連携プロジェクト名	対象分野	今後のアプローチ	参加企業数	
			川上企業	川下企業
戦略的基盤技術高度化支援事業	金型、プラスチック成形加工、位置決め、熱処理	川下企業の開発ニーズを関連川上企業に提示し、連携開発が可能な時は随時申請	5	1

(その他アプローチについて)

対象分野	今後のアプローチ	参加企業数	
		川上企業	川下企業
該当無し			

5. その他

相談内容	回答実績
該当無し	

6. 今後の取組み方針

本事業により、ジョイント・コーディネータが結節点となることで、従来は困難であった県内川上企業と近畿圏の川下企業とのネットワーク構築に向けた足がかりが築けた。

今後は、今年度のマッチング継続案件のフォローアップや上記8研究会の深化に向けた取組みを継続しつつ、県内支援体制の整備や事業戦略のブラッシュアップ等を行い、本支援システムの自立化に向けた展開を進めていくこととする。